

## 中国語における文主語をとる難易文について

著者	王丹丹, 竹沢 幸一
雑誌名	筑波応用言語学研究
巻	27
ページ	1-14
発行年	2020-12-23
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2241/00162346">http://hdl.handle.net/2241/00162346</a>

# 中国語における文主語をとる難易文について<sup>1</sup>

王 丹丹 竹沢 幸一

キーワード：文主語をとる難易文 “对…来说” コントロール 任意の解釈 pro

## 1. はじめに

難易文 (tough sentences) に関する統語的研究は Lees (1960) から始まっており、生成文法の枠組みでは、主として (1) に示す三つの構文の間の派生関係や、(1c) に示す難易構文 (tough construction) の派生方法をめぐり展開されてきた。

- (1) a. To solve the problem is tough (for me).
- b. It is tough (for me) to solve the problem.
- c. The problem is tough (for me) to solve.

(1a) では、難易述語 tough はある命題を表す不定形節の文主語をとっている。(1b) では、虚辞の主語 it が導入され、命題の文主語は補文として現れる。(1c) では、補文の述語 solve の対象である the problem は主文の主語位置に現れる。(1) の各文において、for me は tough の経験者であると同時に、補文述語 solve の意味上の主語でもある。また、for 句は顕在的に現れなくてもよいが、その場合、tough の経験者と solve の主語は任意 (arbitrary) の人を意味する。

一方、中国語においては、難易述語として取り上げられるのは“容易” (容易だ / - やすい) “好” (- やすい) “难” (難しい / - にくい) などがある。英語と比べ、中国語に虚辞の主語がないため、(1b) に対応する配列はないが、(2a) と (2b) に示すように、文主語をとり、単独で述語となる配列も、動詞の対象が主語として現れる配列も存在している。

- (2) a. (对外国人来说,) 学 中文 很 难。  
外国人にとって 学ぶ 中国語 とても 難しい  
'(外国人にとって,) 中国語を学ぶことは難しい。'
- b. (对外国人来说,) 中文 很 难 学。  
外国人にとって 中国語 とても - にくい 学ぶ  
'(外国人にとって,) 中国語は学びにくい。'

本稿では、(2a) のような文主語をとる難易文を研究対象としてその文法的・意味的特徴について考察し、そこに見られる理論的含意について論じる。

<sup>1</sup> 本研究は電子科技大学中央高校基本科研業務費“汉日英从句结构对比研究” (ZYGX2015J166) の成果の一部である。

## 2. 中国語の難易文に関する先行研究の概観

中国語の難易文に関する先行研究は、おおむね三つの方向に分けられる。一つ目は、呂 (1980) や朱 (1982)、王 (1989)、奥田 (2000) などのように、“难” (難しい／-にくい) や“容易” (容易だ／-やすい)、“好” (-やすい) などの難易を表す述語の品詞分類や意味的特徴などについて詳しく追及するものである。二つ目は、戴 (2002)、景 (2013) などのように、英語の難易構文の派生に関する説明を中国語の立場から検証するものである。三つ目は、曹 (2005)、紀 (2006) などのように、中間構文 (middle construction) の研究を行う際に、意味的・構文的に類似しているものとして難易構文を取り上げ、その文法的、意味的特徴について論じるものである。

品詞分類に関しては、“难” (難しい／-にくい) “容易” (容易だ／-やすい) “好” (-やすい) は形容詞であるが、動詞の前に現れる場合、助動詞のように働く (呂 1980)、または、助動詞である (朱 1982、奥田 2000、曹 2005) とされている。それに対して、熊 (2011) は、動詞の前に使われる“好” (-やすい) は助動詞ではなく、vP を補部とする形容詞であるとしている。

中国語の難易構文の文法的・意味的特徴については、曹 (2005) は、文頭に位置する名詞句は後ろの VP における動詞の項であり、一般的には総称性があるものである。動詞の動作主は頭在的に現れておらず、一般的に任意の人を意味する。文が表す命題は恒常性のあるものであり、わりに安定している性質や状態を表すと指摘している。また、戴 (2002) は、難易構文において省略された動作主は同時に難しさ・容易さを体験する経験者でもありと指摘している。このことから、難易述語は何かをするという命題をとるほか、困難さ・容易さを感じる経験者もとっていることが分かる。

(3) a. 俄语 非常 难学。 (曹 2005 : 63)

ロシア語 非常に 学びにくい  
‘ロシア語は非常に学びにくい。’

b. 这门 容易打开。 (戴 2002 : 63)

このドア 開けやすい  
‘このドアは開けやすい。’

ただし、(4) に示すように、困難さ・容易さを感じる経験者は常に省略されるわけではなく、明確に文に現れることもできる。この場合、介詞フレーム“对…来说” (にとって)<sup>2</sup>によって提示され、一般的には文頭に現れる。

<sup>2</sup> “对…来说” (にとって) は、介詞“对”と準助詞“来说”からなっており、一種の固定した言語形式として介詞フレーム (介詞框架) と呼ばれている (陳昌来 2002 など)。また、それと似ている形式としてよく使われるのは“对于…来说”“对 (于) …而言”などがある。これらの介詞フレームの間には詳細な用法上の違いもあるが、本稿では、その詳細な違いについて検討せず、“对…来说”を代表とし、用いることにする。

- (4) a. 对小李来说, 俄语 非常 难学。  
 李さんにとって ロシア語 非常に 学びにくい  
 ‘李さんにとって、ロシア語は非常に学びにくい。’
- b. 对大人来说, 这门 容易打开。  
 大人にとって このドア 開けやすい  
 ‘大人にとって、このドアは開けやすい。’

一方、呂 (1980) の指摘にもあるが、“难” (難しい / - にくい) と“容易” (容易だ / - やすい) は、動詞の前に現れる用法以外、文主語をとり、単独で述語となる用法もある<sup>3</sup>。

- (5) a. 说 起来 容易, 做 起来 难。 (呂 1980 : 467)  
 話す - 出す 簡単だ する - 出す 難しい  
 ‘言うのは簡単で、やるのは難しい。’
- b. 对大人来说, 打开 这门 很容易。  
 大人にとって 開ける このドア とても容易だ  
 ‘大人にとって、このドアを開けるのはとても簡単だ。’

しかし、以上見てきたように、中国語の難易文に関する先行研究は、ほとんどが「難易述語-V」という形が使われる文を中心に行われている。(5) のような文主語をとる難易文の存在が指摘されてはいるが、それ以上研究されていない。本稿は、中国語の文主語をとる難易文について考察し、コントロールの観点から、その統語的・意味的特徴について説明する。

### 3. 文主語をとる難易文の統語的・意味的特徴

本節では、中国語における文主語をとる難易文の特徴について詳しくみる。まず、(6) に示すように、意味的には、文主語の空主語は必ず“对…来说” (にとって) によって提示される難易述語の経験者と同一指示を持たなければならない。この点は戴 (2002) に指摘される「難易述語-V」の形式が使われる難易構文と同様である。

- (6) 对老李<sub>1</sub>来说, [△<sub>1</sub>\*<sub>2</sub> / \*儿子<sub>2</sub>在北京 买房] 非常难。  
 李さんにとって 息子 北京で 家を買う 非常に難しい  
 ‘李さんにとって、(\*息子が) 北京で家を買うことは非常に難しい。’

(6) では、“对…来说” (にとって) で提示される主文述語“难” (難しい) の経験者“老李” (李さん) は、文主語“在北京买房” (北京で家を買う) における動詞“买” (買う) の動作主でもある。“买” (買う) の動作主が“老李” (李さん) と異なった人物の“儿子” (息子) になると、文は成立しない。

<sup>3</sup> “好” は容易という意味では、単独で述語とならず、「好 V」の形でしか現れない。以下では、“难” (難しい / - にくい) と“容易” (容易だ / - やすい) だけを取り上げ、議論を進める。

一方、(7) に示すように、主文の述語が非難易形容詞の“重要”（重要だ）などの場合、文主語における動作主は主文の経験者と同じ指示解釈を持っていてもよければ、異なった指示解釈を持っていてもよい。このようなことから、文主語をとる難易文はそれと同じ構文を持つ非難易文と異なった特徴を持つことが分かる。

- (7) 对老李<sub>1</sub>来说, [ $\Delta_{1/2}$ /儿子<sub>2</sub> 在北京 买房] 很重要。  
 李さんにとって 息子 北京で 家を買う とても重要だ  
 ‘李さんにとって、息子が北京で家を買うことはとても重要だ。’

次に、文主語をとる難易文における名詞句の現れ方であるが、(6) で見たように、難易述語の経験者が“对…来说”（にとって）によって顕在的に提示され、文主語における主語はゼロ形式になるほか、(8a) に示すように、難易述語の経験者句がゼロ形式で、文主語における主語が顕在的名詞句で現れることもできる。また、(8b) に示すように、主文の経験者と文主語における主語が両方顕在的に現れることも可能であるが、その場合、文の容認度が少し落ちてしまう。さらに、(8c) のように、主文の経験者も文主語における主語も両方ゼロ形式になることも可能である。この場合、一般的には、両者の意味解釈は任意の人を表すが、一定の文脈にあれば、特定の人を意味することもできる。例えば、ただ「北京で家を買う」ということについて話す場合、(8c) は「誰にとっても北京で家を買うことは難しい」という意味を表す。一方、特定の文脈の中に置かれ、話題の李さんについて話す場合、「李さんが北京で家を買うことは非常に難しい」という意味になる。

- (8) a.  $\Delta_1$  [老李<sub>1</sub> 在北京 买房] 非常难。  
 李さん 北京で 家を買う 非常に難しい  
 ‘李さんが北京で家を買うことは非常に難しい。’  
 b. ? 对老李<sub>1</sub>来说, [他<sub>1</sub>在北京 买房] 非常难。  
 李さんにとって 彼 北京で 家を買う 非常に難しい  
 ‘李さんにとって、彼が北京で家を買うことは非常に難しい。’  
 c.  $\Delta_{arb/1}$  [ $\Delta_{arb/1}$  在北京 买房] 非常难。  
 北京で 家を買う 非常に難しい  
 ‘北京で家を買うことは非常に難しい。’

本節をまとめると、中国語の文主語をとる難易文は、その難易述語の経験者と文主語における動作主の意味解釈と現れ方に関しては、以下四つの配列があることが分かる。

- (9) タイプ A : 对 NP<sub>1</sub> 来说, [ $\Delta_1$  VP] 难/容易  
 タイプ B :  $\Delta_1$  [NP<sub>1</sub>-VP] 难/容易  
 タイプ C :  $\Delta_{1/arb}$  [ $\Delta_{1/arb}$  VP] 难/容易  
 タイプ D : 对 NP<sub>1</sub> 来说, [NP<sub>1</sub>-VP] 难/容易

次節では、生成文法理論におけるコントロール現象の観点から、(9) に示す四つの構文配列の生成メカニズムについて分析する。

## 4. 文主語をとる難易文とコントロール

本節では、コントロールの観点から、(9) で見た文主語をとる難易文の四つの配列の可能性について考察する。コントロール現象は Rosenbaum (1967) によって指摘されたとおり、ある補文における空主語が主文にある要素と同一指示を持つ現象のことである。ただし、コントロールの定義に関しては、学者によって以下の二点において異なっている。一点目は、コントロールと関係するのは PRO だけなのか、そうではないのかということであり、二点目は、先行詞となる要素は顕在的な要素だけなのか、それとも、非顕在的な要素でもよいのかということである。Chomsky (1981) などは、コントロールは特殊なゼロ要素 PRO とその先行詞との同一指示関係を指すとしている。このような定義では、コントロールと関係しているのは PRO だけであり、先行詞となる要素は顕在的なものに限られる。それに対して、Bresnan (1982) などは、コントロールはある非顕在的な補文主語と顕在的または非顕在的な主文要素との同一指示関係を指すとしている。この定義では、コントロールは PRO だけと関係するのではない。また、先行詞となる要素は顕在的な要素だけではなく、非顕在的な要素も可能である。本研究では、後者の定義を用いて議論を進めていく。

### 4.1 タイプA・タイプBの配列とコントロール

#### 4.1.1 タイプAの配列とコントロール

(10) に示すように、タイプAの配列においては、主文にある難易述語の経験者が顕在的な名詞句であるが、文主語における主語はゼロ形式である。意味的には、両者は同一指示解釈を持たなければならない。このような形式的・意味的な特徴は、(11) に示す一般的なコントロール構文と同様である。

- (10) 对小孩子<sub>1</sub>来说, [ $\Delta_{1/*2}$  学外语] 比较简单。  
子供にとって 外国語を学ぶ わりに簡単だ  
'子供にとって、外国語を学ぶことはわりに簡単だ。'

- (11) a. 张三<sub>1</sub> 设法 [ $\Delta_{1/*2}$  来]。 (Huang1989 : 189)  
张三 試みる 来る  
'张三は何とかして来ようとしている。'  
b. 我<sub>1</sub> 逼 李四<sub>2</sub>[ $\Delta_{*1/2/*3}$  来]。 (Huang1989 : 189)  
私 強制する 李四 来る  
'私は李四に来るように強制した。'

(11a) と (11b) において、それぞれコントロール動詞“设法”(試みる)と“逼”(強制する)が使われ、補文の空主語はそれぞれ主文の主語“张三”と主文の目的語“李四”と同一指示解釈を有する。

このような意味的・形式的な共通点だけではなく、(10) に示すタイプAの難易文とコントロール構文との間に、コントローラーに関する選択制限やVP削除が実行された場合

の空主語の読みなどの点においても、共通点を持っている。まず、Harada (1973) が指摘しているように、コントロール構文におけるコントローラーは、意志性のある有生物でなければならない、無生物は許されない。この選択制限は難易文に関しても有効である。

- (12) a. 张三 准备 跳 下来。  
張三 つもりだ 跳ぶ 降りる  
‘張三は飛び降りるつもりだ。’  
b. \*石头 准备 落 下来。  
石 つもりだ 落ちる くる
- (13) a. \*对石头来说, 落下来 很容易。  
石にとって 落ちてくる とても簡単だ  
b. \*对汽油来说, 挥发 很容易。  
ガソリンにとって 揮発する とても簡単だ

(12) では、コントローラーが意志性を持つ“张三”なら、文は成立するが、無生物の“石头”（石）なら文は成立しない。同様に、(13) に示す文主語をとる難易文においても、経験者が“石头”（石）や“汽油”（ガソリン）のような無生物の場合、文は成立しない。

次に、VP 削除環境での空主語の解釈に関しても、文主語をとる難易文はコントロール構文と同じ特徴を持っている。(14a) に示すように、コントロール構文では、空主語のコントローラーは局所的 (local) でなければならない。したがって、VP 削除の際に、先行文にある先行詞を指す厳密読み (strict reading) は許されず、後続文にある先行詞を指すスロッピー読み (sloppy reading) だけが許される。それに対して、(14b) に示すように、非コントロール構文はこのように制限されない。

- (14) a. 张三<sub>1</sub> 决心 [e<sub>1</sub>\*<sub>2</sub> 去 法国 留学], 李四 也 是。  
張三 決心する 行く フランス 留学する 李四 も だ  
‘張三はフランスへ留学することを決心した。李四もだ。’  
b. 张三<sub>1</sub> 以为 [e<sub>1</sub>/<sub>2</sub> 去 法国 留学], 李四 也 是。  
張三 思う 行く フランス 留学する 李四 も だ  
‘張三はフランスへ留学すると思った。李四もだ。’

(14a) の前の文においては、コントロール動詞“决心”（決心する）が使われている。後ろの文“李四也是”（李四もだ）は、“李四也决心去法国留学”（李四もフランスへ留学することを決心した）という文の VP 削除の形式で、フランスへ留学する人は前の文における“张三”にならず、局所的な主語“李四”しか意味しない。それに対して、(14b) では、非コントロール動詞“以为”（思う）が使われている。前の文における補文の主語は主文の主語“张三”でもよければ、“张三”以外の誰かでもよい。それに続く、後ろの文“李四也是”（李四もだ）は、“李四也以为去法国留学”（李四もフランスへ留学すると思った）の VP 削除の形式であり、「李四も自分がフランスへ留学するのだと思った」という意味も「李四も张三がフランスへ留学すると思った」という意味も可能である。

(15) に示すように、タイプ A の文主語をとる難易文は、VP 削除がかけられた場合、コントロール構文同様の意味的制限が効いているが、それに対して、同じ構文形式を持っている非難易文は、このような意味的制限が見られない。

(15) a. 对张三来说, 去 法国 留学 很难。 对李四来说 也 是。

張三にとって 行くフランス 留学する とても難しい 李四にとっても だ  
‘張三にとって、フランスへ留学することは難しい。李四にとってもだ。’

b. 对张三来说, 去 法国 留学 很重要。 对李四来说 也 是。

張三にとって 行く フランス 留学する とても重要だ 李四にとっても だ  
‘張三にとって、フランスへ留学することは重要だ。李四にとってもだ。’

(15a) の文主語をとる難易文に VP 削除がかけられた“对李四来说也是”（李四にとってもだ）という文は、「李四がフランスへ留学することは李四にとって難しい」という意味しかないが、(15b) のように、非難易述語“重要”（重要だ）が使われる場合、後続文は、「李四がフランスへ留学することは李四にとって重要だ」という意味も、「張三がフランスへ留学することは李四にとっても重要だ」という意味もとれる。

以上のようなことから、中国語におけるタイプ A の文主語をとる難易文は、コントロール構文と同様の特徴を持っており、主文にある経験者と文主語における空主語はコントロール関係にあると言える。

#### 4.1.2 タイプBの配列と後方コントロール

生成文法の標準理論と GB 理論の枠組みにおいては、コントロールといえば、一般的に、4.1.1 節で見たように、コントロールする要素が顕在的で、構造的に高い位置を占めるのに対して、コントロールされる要素はゼロ形式で、構造的に低い位置にあるとされている。具体的にいえば、標準理論では、Rosenbaum (1967) は、コントロールを同一名詞句削除 (equi NP deletion) と見なし、同一指示を持つ二つの要素のうち、コントロールされる名詞句のほうが削除されると規定している。GB 理論では、Chomsky (1981) などは、コントロールを特殊なゼロ代名詞 PRO と関係づけ、PRO はそれを局所的に c 統御する先行詞と同一指示解釈を持つとしている。

ところが、生成文法がミニマリスト・プログラム時代に入ってから、コントロールには前方コントロール (forward control) と後方コントロール (backward control) があると指摘されるようになった (Farrell 1995、Polinsky and Potsdam 2002、2006、Monahan 2003. etc.)。 (16) は Polinsky and Potsdam (2006) によって指摘されているツェズ語における前方コントロールと後方コントロールの例である。そのうち、(16a) は、GB 理論時代までに言われたコントロール構文であり、コントロールする要素がコントロールされる要素より構造的に高い位置を占める配列で、前方コントロール構文と呼ばれる。それに対して、(16b) は、コントロールする要素がコントロールされる要素より構造的に低い位置を占める配列であり、後方コントロール構文と呼ばれている。



- (16) a. ~~kid~~-bā [ ~~kid~~-bā čorpa bod-a] hakarat nelsi.  
 girl-ERG girl-ERG soup.ABS make-INF attempt gave  
 └── A-chain ─┘ Forward control  
 ‘The girl tried to make soup.’
- b. ~~kid~~ [kid-bā čorpa bod-a] y-oqsi.  
 girl.ABS girl-ERG soup.ABS make-INF II-began  
 └── A-chain ─┘ Backward control  
 ‘The girl began to make soup.’

(Polinsky and Potsdam 2006 : 178) <sup>4</sup>

このことを踏まえ、タイプ B の難易文について見てみよう。タイプ B の配列は、文主語における動作主と主文の経験者“対…来说”（にとって）とが同一指示を持つ点でタイプ A と一致しているが、現れ方ではタイプ A と異なっている。すなわち、タイプ A は、主文の経験者が顕在的で、文主語における動作主はゼロ形式であるが、タイプ B は、(18) に示すように、主文の経験者がゼロ形式で、文主語における動作主は顕在的である。このようなタイプ B の難易文がまさに (16b) に示すツェズ語の後方コントロール構文に対応している。

(17) タイプ A : 对 NP<sub>1</sub> 来说, [Δ<sub>1</sub> VP] 难/容易

タイプ B : Δ<sub>1</sub> [NP<sub>1</sub>-VP] 难/容易

(18) Δ<sub>1</sub> [小孩子<sub>1</sub> 学外语] 比较容易。

子供 外国語を学ぶ わりに簡単だ

‘子供が外国語を学ぶことはわりに簡単だ。’

ツェズ語と異なり、中国語は格変化を持たない言語で、格標示からある名詞句が主文にあるか、補文にあるかを判断しにくい。中国語では、“対…来说”（にとって）という介詞フレームを用いて、難易述語の経験者を確認することができる。また、(19) に示すように、数量詞の作用域を使い、“対…来说”（にとって）によって提示されない名詞句が主文にあるか、補文にあるかを区別することができる。

(19) a. 对全班同学来说, [一次性 通过 司法考试] 很难。

クラス全員にとって 一度に 通る 法律試験 とても難しい

‘クラス全員にとって、一回だけで法律試験に通ることはとても難しい。’

b. [全班同学 一次性 通过 司法考试] 很难。

クラス全員 一度に 通る 法律試験 とても難しい

‘クラス全員が一回だけで法律試験に通ることはとても難しい。’

<sup>4</sup> Polinsky and Potsdam (2006) は、コントロールを名詞句移動とする分析に則り、前方コントロールと後方コントロールの区別を高い位置にある名詞句コピーが削除されるか、それとも、低い位置にある名詞句コピーが削除されるかに還元させている。4.1.3 節で議論するが、本稿は、コントロールがコピー&削除の結果であるという立場をとらない。

(19) では、主文の経験者・文主語の動作主が数量表現“全班同学”(クラス全員)である。“小孩子”(子供)“老张”(張さん)といった名詞句が使われた場合と異なり、(19a)と(19b)の間に意味上の違いが明らかに存在している。この違いは数量詞の作用域が異なっていることから来ていると考える。具体的には、(19a)における“全班同学”(クラス全員)は広い作用域を持っており、主文の述語“很难”(とても難しい)までカバーし、主文にあることが分かる。それに対して、(19b)における“全班同学”(クラス全員)は狭い作用域を持ち、それが文主語にあることが分かる。

要するに、中国語における文主語をとるタイプAとタイプBの難易文は、それぞれ前方コントロールと後方コントロールに対応していると言える。このように分析すれば、両配列の意味的・形式的特徴がうまく説明される。

#### 4.1.3 タイプAとタイプBの難易文におけるゼロ要素の性質

4.1.1 節と 4.1.2 節では、中国語におけるタイプAとタイプBの難易文はそれぞれ前方コントロールと後方コントロールに対応していることを見た。本節では、タイプAとタイプBの難易文におけるゼロ要素の性質について考える。

まず、タイプAの難易文におけるゼロ要素についてである。(8b)で示したように、タイプAの配列において、文主語における主語は顕在的に現れることが可能であるため、その文主語が定形節であると考えられる(cf. 王 2010)。王(2010)によると、中国語の定形コントロール補文における空主語は *pro* である。同様に、タイプAの配列における空主語を顕在的代名詞と交替する *pro* として分析することは特に問題がなからう。

次に、タイプBの難易文の主文におけるゼロ要素について見る。Polinsky and Potsdam (2002)は、*pro* 脱落言語のツェズ語における後方コントロールについて考察する際に、後方コントロール構文における主文のゼロ要素を *pro* として分析すべきではないとしている。その理由として三つのことを挙げている。一つ目は、*pro* は *PRO* と異なり、一般的にはコントロールと関係しないからである。二つ目は、*pro* と分析する場合、*pro* はその先行詞を *c* 統御することになり、束縛原理Cに違反してしまうからである。三つ目は、後方コントロール構文におけるゼロ要素は顕在的代名詞と交替しないからである。

ところが、中国語に関していえば、これらの理由は成り立たない。まず、中国語では、*PRO* だけではなく、*pro* もコントロールと関与している(Huang 1989, 王 2010 など)。次に、(20)に示すように、束縛原理Cの違反にならなければ、タイプBの配列におけるゼロ要素は顕在的代名詞と交替することが可能である。

- (20) a. \*对于他们<sub>1</sub>来说, [小孩子<sub>1</sub> 学外语] 比较容易。  
彼らにとって 子供 外国語を学ぶ わりに簡単だ
- b. (?) [小孩子<sub>1</sub> 学外语] 对于他们<sub>1</sub>来说, 比较容易。  
子供 外国語を学ぶ 彼らにとって わりに簡単だ  
‘子供が外国語を学ぶことは彼らにとって、わりに簡単だ。’

(20) に示すように、中国語にはかき混ぜ現象がある。かき混ぜ操作を加えれば、主文におけるゼロ要素はその先行詞を c 統御しなくなり、束縛原理 C の違反にならない。そのため、タイプ B の難易文の主文にあるゼロ要素を pro として分析しても問題にならない (cf. Cormack and Smith 2004)。

- (21) [小孩子<sub>1</sub> 学外语] pro<sub>1</sub> 比较容易。 (かき混ぜ)  
 子供 外国語を学ぶ わりに簡単だ  
 ‘子供が外国語を学ぶことはわりに簡単だ。’

一方、Polinsky and Potsdam (2002、2006) は、後方コントロール構文の主文におけるゼロ要素を、統語的に高い位置にある名詞句コピーの削除であるとしている。この分析に従えば、名詞句が削除された位置に再び顕在的要素が現れないと想定される。しかし、(20) で見たように、中国語のタイプ B の難易文では、束縛原理 C の違反にならないければ、主節の経験者も顕在的に出現可能である。そのため、本稿では、中国語のタイプ B の難易文におけるゼロ要素は名詞句コピーの削除ではなく、pro として分析すべきであると考える。

## 4.2 タイプ C の配列から見る任意の解釈の決め方

中国語におけるタイプ C の難易文は、(22) に示すように、形式的には、主文の経験者と文主語における主語は両方ゼロ形式になっている。意味的には、両者は同一指示解釈を持ち、特定の意味解釈または任意の解釈をとる。このような現れ方と意味特徴もコントロールで説明できることを以下で示す。

- (22)  $\Delta_{1/arb}$  [ $\Delta_{1/arb}$  在北京 买房] 非常难。  
 北京で 家を買う 非常に難しい  
 ‘北京で家を買うことは非常に難しい。’

まず、ゼロの経験者と文主語の空主語が特定の意味解釈を有する場合、(23) のように、元来顕在的に出現した主文の経験者が脱落し、ゼロ形式になっていると分析できる。

- (23) 对于老李<sub>1</sub>来说, [ $\Delta_1$  在北京 买房] 非常难。  
 李さんにとって 北京で 家を買う 非常に難しい  
 ‘~~李さんにとって~~、北京で家を買うことは非常に難しい。’

中国語は pro 脱落言語であり、トピック指向言語 (topic-prominent language) でもある (Li & Thompson 1976、Tsao 1977 etc.)。Huang (1984、1989) は、中国語において、トピック名詞句の削除現象があるという Tsao (1977) の指摘に基づき、ゼロ要素はゼロトピックに束縛される場合があるとしている。

- (24) [<sub>Top</sub>  $\Delta_1$ ]张三 说 [ 李四 不认识  $\Delta_1$ ]。 (Huang 1984 : 542)  
 張三 言う 李四 知らない  
 ‘張三は、李四が知らないと言った。’

そのため、特定の解釈を有する場合、(22) のタイプ C の配列は、(25) のように分析で



空主語は任意の解釈を持つ  $pro_{arb}$  によってコントロールされていると分析できる。

- (28)  $pro_{arb}$  [ $pro_{arb}$  在北京 买房] 非常难。  
北京で 家を買う 非常に難しい  
‘北京で家を買うことは非常に難しい。’

要するに、タイプ C の配列の難易文は、その主文の経験者と文主語における主語同一指示関係および現れ方もコントロールとして説明することができる。

### 4.3 タイプ D の容認度について

(29) に示すように、文主語をとる難易文において、主文の経験者と文主語における動作主が同時に顕在的に出現する場合、容認度がやや低くなる。本節では、この意味的な特徴が中国語の定形コントロール構文にも見られることを示し、その理由について考える。

- (29) 对小孩子<sub>i</sub>来说, [ $\Delta_i$ ?他们<sub>i</sub> 学外语] 比较容易。  
子供にとって 彼ら 外国語を学ぶ わりに簡単だ  
‘子供にとって、 $\Delta_i$ ?彼らが外国語を学ぶことはわりに簡単だ。’

王 (2010) によると、中国語のコントロール構文には不定形コントロール構文と定形コントロール構文の二種類がある。そのうち、(30) に示すように、定形コントロール構文の補文には顕在的な主語が出現可能である。ただし、ゼロ形式よりも、主語が顕在的に現れる場合、容認度は少し落ちる。このことは (29) に示す文主語をとる難易文と同様である。

- (30) 我 劝 张三<sub>i</sub> [ $\Delta_i$ ?他<sub>i</sub> 不要 买 这本书]。  
私 勧める 張三 彼 しない 買う この本  
‘私は張三に彼がこの本を買わないように勧めた。’

このような容認度が落ちることは、Chomsky (1981) が指摘している「代名詞を回避せよ」(Avoid a pronoun) という規則が働いているためであると考えられる。「代名詞を回避せよ」という規則では、ゼロ要素で可能であれば、音形のある代名詞よりもゼロ代名詞のほうが選択される。そうでなければ、本来の意味と異なった意味解釈が得られやすい。

## 5. まとめと今後の課題

本稿は、中国語の文主語をとる難易文を中心に、その統語的・意味的特徴について考察した。“对…来说” (にとって) によって提示される主文の経験者と文主語における主語の意味的・形式的特徴に基づき、文主語をとる難易文は四種類の配列があることを指摘した上で、コントロールの観点から、その四種類の配列の生成メカニズムについて説明した。

一方、冒頭においても取り上げたが、中国語の難易文には“难/容易 - V” と“文主語 - 难/容易” という二つの形式の交替が見られる。現段階では、この構文形式の交替に伴う意味的・統語的な違いはまだ究明されておらず、今後さらなる研究が必要である。

また、(31) に示すように、本稿で考察した現象が日本語の難易文においても見られる。

- (31) a. 外国人<sub>1</sub>にとって[ $\Delta_1$  漢字を書くことは]難しい。  
 b.  $\Delta_1$ [外国人<sub>1</sub>が漢字を書くことは]難しい。  
 c.  $\Delta_{1/arb}$ [ $\Delta_{1/arb}$  漢字を書くことは]難しい。  
 d. 外国人<sub>1</sub>にとって[彼ら<sub>1</sub>が漢字を書くことは]難しい。

日本語はいくつかの点において、中国語同様な特徴を持っている。例えば、同じく pro 脱落言語であること、同じく話題優勢の言語で、ゼロトピックが存在する言語などである(久野 1983、Hasegawa 1984/5、Nakamura 1991 etc.)。4 節で行った中国語に対する分析が日本語に関して通じるか否か、今後、検証してみたい。

### 【参考文献】

- 王丹丹 (2011) 『pro 脱落言語におけるゼロ要素の統語的分析—日本語と中国語を中心に—』筑波大学博士論文。
- 久野暉 (1983) 『新日本文法研究』大修館書店。
- 奥田寛 (2000) 作为助动词的“容易”和“好”，《语法研究和探索》(十)，北京：商务印书馆，243-256。
- 曹宏 (2005) 中动句的语用特点及教学建议，《汉语学习》5: 61-68。
- 陈昌来 (2002) 《介词与介引功能》合肥：安徽教育出版社。
- 戴小春 (2002) 英、汉难易结构对比，《湖南第一师范学报》2-1: 62-65。
- 纪小凌 (2006) 再论汉语的中间结构，《上海师范大学学报》6: 123-130。
- 景娜娜 (2013) 汉语难易结构的特点及生成研究，广东外语外贸大学硕士论文。
- 吕叔湘 (1980) 《现代汉语八百词》(增订本) 2019 年版，北京：商务印书馆。
- 王丹丹 (2010) 汉语中的两种控制从句，《语言科学》9-6: 561-571。
- 王为民 (1989) “好 V” 和 “好 VN”，《汉语学习》2: 14-16。
- 熊仲儒 (2011) “NP+好 V” 的句法分析，《当代语言学》13-1: 63-72。
- 朱德熙 (1982) 《语法讲义》北京：商务印书馆。
- Bhatt, Rajesh and Roumyana Izvorski (1997) Genericity, implicit arguments, and control, SCIL VII; ([ftp://ling.upenn.edu/student\\_papers/bhatt/PROarb.ps](ftp://ling.upenn.edu/student_papers/bhatt/PROarb.ps).)
- Bhatt, Rajesh and Roumyana Pancheva (2017) Implicit Arguments. In: Martin Everaert and Henk C. van Riemsdijk (eds.) *The Wiley Blackwell Companion to Syntax*, 1-35. Blackwell.
- Bresnan, Joan (1982) Control and complementation. *Linguistic Inquiry* 13: 343-434.
- Chomsky, Noam (1981) *Lectures on government and binding*. Dordrecht: Foris.
- Chomsky, Noam (1982) *Some concepts and Consequences of the Theory of Government and Binding*. Cambridge, Mass.: MIT Press.
- Cormack, Annabel and Neil Smith (2004) Backward control in Korean and Japanese. *University College of London Working Papers in Linguistics* 16: 57-83.
- Epstein, Samuel David (1984) Quantifier-pro and the LF representation of PRO<sub>arb</sub>.

- Linguistic Inquiry* 15: 499-504.
- Farrell, Patrick (1995) Backward control in Brazilian Portuguese. In: Janet M. Fuller, Ho Han and David Parkinson (eds.) *Proceedings of the 11th Eastern Conference on Linguistics*, 116-127. Ithaca, N.Y.: Cornell University Department of Modern Languages and Linguistics.
- Harada, Shin-ichi (1973) Counter equi NP deletion. *Research Institute of Logopedics and Phoniatrics Annual Bulletin* 7, 113-147. University of Tokyo.
- Hasegawa, Nobuko (1984/5) On the so-called “zero pronouns” in Japanese. *The Linguistic Review* 4: 289-341.
- Huang, C.-T. James (1984) On the distribution and reference of empty pronouns. *Linguistic Inquiry* 15: 531-574.
- Huang, C.-T. James (1989) pro-drop in Chinese: A generalized control theory. In: Osvaldo Jaeggli and Kenneth J. Safir (eds.) *The Null Subject Parameter*, 185-214. Dordrecht: Kluwer Academic Publishers.
- Lees, Robert B. (1960) A multiply ambiguous adjectival construction in English. *Language* 36: 207-221.
- Li, Charles N & Thompson, Sandra A (1976) Subject and topic: A new typology of language. In: Charles. N. Li (ed.) *Subject and Topic*, 457-489. New York: Academic Press.
- Monahan, Philip (2003) Backward object control in Korean. In: Gina Garland and Mimu Tsujimura (eds.) *WCCFL* 22, 356-369. Somerville, MA: Cascadilla Press.
- Nakamura, Masaru (1991) Japanese as a pro language. *The Linguistic Review* 6: 281-296.
- Polinsky, Maria and Potsdam, Eric (2002) Backward control. *Linguistic Inquiry* 33: 245-282.
- Polinsky, Maria, and Potsdam, Eric (2006) Expanding the scope of control and raising. *Syntax* 9 (2) : 171-192.
- Rosenbaum, Peter (1967) *The grammar of English predicate complement constructions*. Cambridge, Mass.: MIT Press.
- Tsao, Feng-fu (1977) A functional study of topic in Chinese: the first step toward discourse analysis. Ph. D. dissertation, USC, Los Angeles, California.